

1. 心のクリニック活動報告 (2012年9月～2013年8月)

1) 心のクリニックの運営体制

(1) スタッフ構成

心のクリニックの2013年8月時点のスタッフ構成は、表1に示したように相談員19（本学心理学科専任教員9名、非常勤相談員10名）、研修相談員4名、院生相談員27名（修士課程2年生14名、修士課程1年生13名）、事務職員2名であり、総勢52名で心のクリニックの運営に当たっている（2013年度のスタッフは、3. スタッフ名簿に示している）。

表1 スタッフ構成

相談員		研修相談員	院生相談員		事務職員	計
本学教員	非常勤		M 1	M 2		
9	10	4	14	13	2	52

※2013年8月時点

(2) 施設について

心のクリニックは、追手門学院大学地域支援心理研究センターの1～3階にあり、以下の様な施設において相談活動を行っている。

1階：事務室および受付

 プレイルーム 2室

2階：相談室 3室

 集団カウンセリング室 1室

 心理検査室 1室

 資料室 1室

 待合室 1室

3階：相談室 2室

 スタッフルーム 1室

 ミーティングルーム 1室

 会議室 1室

 多目的室 1室

(3) 心のクリニック相談員会議

心のクリニック相談員会議は2006年4月から原則として月1回の開催となり、2012年9月から2013年8月の期間に9回の会議を行った。相談員会議は、本学教員である相談員に加え事務職員（記録者）1名が参加し、主にクリニックの運営や大学院生の臨床実習の進め方等について協議を重ねている。

1. 心のクリニック活動報告（2012年9月～2013年8月）

(4) インテーク・カンファレンス

インテーク・カンファレンスは、昨年同様、月曜日5時間目（16：40～18：10）の臨床心理研究法演習の中で行なった。参加教員は、臨床心理研究法演習担当教員は勿論であるが、精神科医である心のクリニック相談室長（2013年4月よりはセンター長）が毎回出席している。また、担当以外の心理学科専任教員や非常勤相談員である臨床心理士も時間が許す限り参加することがあり、活発な討議が行われている。M1、M2の必修科目なので、毎回30名程の大学院生が参加した。ここでは電話受付やインテーク面接の情報に基づいてケースの概要が報告され、ケース担当者の人選、初期の見立てと面接方針等について検討を行っている。新規ケースについて相談員が臨床心理士としてどのような臨床的判断を加えるのか、また初期の見立てや方針がどのようになされるのかについて、院生相談員が身近に学ぶ機会を提供できるように意図されており、大学院生の教育の一環として貴重な時間となっている。

(5) 研修相談員制度

本学臨床心理学コース修了者で臨床心理士の資格取得を目指す者、ないしはそれと同等以上の学力・経験をもつ学外者で、臨床研修を希望する者に対して、研修相談員の制度を設けている。2013年度は4名の研修相談員が在籍し、インテーク面接、心理査定、心理面接、プレイセラピー、研究などの業務に関わっている。心理面接、心理査定に関しては本学心理学科専任教員もしくは非常勤相談員（臨床心理士）からスーパーヴィジョンを受けており、また研究に関しては心理学科専任教員から指導を受けている。

2) 相談活動について

(1) 開室時間

開室時間は、2008年度までは木曜日を除く月曜日から金曜日の午前10時から午後5時までであったが、ケース数の増加を望む声から大学院生からあがり2009年4月から木曜日も開室することとなった。さらに、来談者の希望時間帯が夕方が多いことから、2011年4月から相談時間を1時間繰り下げ、午前11時から午後6時までとした。よって、開室時間は、昨年同様、月曜日から金曜日の午前11時から午後6時までとなった。

(2) 相談件数

① 電話相談および問い合わせ件数

2012年9月から2013年8月までの一年間の電話による相談と問い合わせ件数を、表2に示した。連携機関・学校関係からの紹介、地域の病院やクリニックからの紹介、また新聞記事や本学ホームページ等により、心のクリニックの情報を知り、電話連絡がある場合が多かった。この一年間で74件（昨年同時期は61件）の電話相談および問い合わせがあり、その内、インテークにつながったものは49件（以下、同38件）、他機関へ紹介したものが1件（同3件）、電話のみが22件（同17件）、インテークのキャンセルが2件（同2件）となっている。電話による問い合わせは昨年よりも増加傾向にある。

表2 電話相談および問合せ件数

内 訳	インテーク	リファー	電話のみ	インテークキャンセル	その他	計
件 数	49	1	22	2	0	74

次に、月別の電話相談および問い合わせ件数を表3に示した。最も多かった月が2013年の1月と7月の9件、次いで2012年12月、2013年6月の7件であり、最も少なかった月が2013年の3、5、6月の4件であった。概ね、年間を通じて電話相談件数に大きな偏りはなかったが、電話による相談および問い合わせは、夏休みや冬休みといった学期の終了、開始といった時期が多い傾向にあった。

表3 月別電話相談および問い合わせ件数

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
インテーク	8	5	6	3	6	3	1	2	3	3	5	4	49
リファー								1					1
電話のみ				3	3	2	3	3		1	4	3	22
インテークキャンセル				1					1				2
そ の 他													0
計	8	5	6	7	9	5	4	6	4	4	9	7	74

※インテークは、申込み日でカウントする

② 新規相談受理人数

新規相談受理人数を、表4に示した。この1年間の新規相談受理人数は、69名（昨年同時期は54名）であった。昨年度は、一昨年度に比べかなり人数が減った（一昨年：100名）のだが、本年度は再び増加傾向にある。その内訳は0～6歳が9件、7～12歳が7件、13～18歳が7件、19～25歳が5件、26～40歳が17件、41～60歳が24件、61歳以上が0件となっている。

当クリニックでは、幼児を対象とする集団遊戯療法「にこにこ教室」を開催していることから、幼児とその保護者の年齢層の受理人数が多くなるのが例年であるが、ここ2年は「にこにこ教室」参加者が例年に比し減少し、0～6歳児と26～40歳の母親の年齢層が減少気味である。一方、41～60歳は24件と昨年の11件より大幅な増加となった。働き盛りのこの層の相談は、以前はほとんど見られなかったが、一昨年は25名と急増していた。地域貢献として、この年齢層のニーズを踏まえ、昨年度よりクリニック開室時間を1時間遅くしたが、昨年は11名と例年並みに少なかった。今年の相談件数の増加が今後も続くかどうかは不確定だが、一年以上経ってようやく開室時間延長の効果が表れたのかもしれない。

表4 新規相談受理人数

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人数	9	7	7	5	17	24	0	69
%	13.0	10.1	10.1	7.2	24.6	34.8	0.0	100

※インテークを2回実施したケース、同席者があったケースを含む

次に月別の年齢層別新規相談受理人数を表5に示した。受理人数の最も多い月は2012年10月の12件、次いで2013年6月の11件であり、最も少ない月は2013年5月の0件と2013年の1月、3月の2件であった。例年比較的受理面接が多いのは5月と10月であり、これは5月と10月にスタートする「にこにこ教室」の参加人数（児・母親）が加算されるからである。昨年同様、本年も、「にこにこ教室」が秋学期のみの開講となったので10月のみ新規相談人数の増加をみた。また受理面接が、夏期休暇中や年度末および年始に少ないのは例年通りである。

表5 月別年齢層別新規相談受理人数

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
0～6	2	4	1							2			9
7～12	1			1		2				1		2	7
13～18			1	2	1			1		2			7
19～25	1		1				1	1		1			5
26～40	4	4	1			3		2		2	1		17
41～60	1	4	5	2	1	3	1	1		3	2	1	24
61～													0
計	9	12	9	5	2	8	2	5	0	11	3	3	69

※インテークを2回実施したケース、同席者があったケースを含む

③ インテーク面接以後、および、継続面接以後の経過

インテーク面接後の経過の件数を表6-1に、その人数を表6-2に示した。また、継続面接後の経過の件数を表7-1に、その人数を表7-2に示した。件数の上では、インテーク面接以降、継続の契約となったケースは39件（昨年同時期32件）であり、インテーク面接のみが10件（同8件）、リファーが1件（同2件）であった。「インテークのみ」には、来談希望者の希望する通所曜日・時間及び料金の面で都合が合わず治療契約に至らなかったケースが含まれている。インテーク件数は昨年よりも11件多い48件（同37件）であり、その分、継続件数が7件増加している。ただし、昨年の報告でも触れられているように、一昨年度から継続面接の件数や人数（表7-1、7-2参照）が6割弱と低い。例年受理面接後の終結件数および終結人数は数件（数人）であるところが、終結件数が15件（前年13件）で終結人数が23人（前年20人）であった。一昨年の活動報告では、終結件数・人数とも全体の45%を超えていたので、この2年は若干継続が増えてきたとはいえ、やはり長期継続ケースが減少しているとみてよい。内訳として、近隣の病院からの

リファアーによる成人層の増加に伴い、治療困難なケースが増えている印象がある。

表6-1 受理面接以後の経過（件数）

内 訳	インテークのみ	継 続	リファアー	計
件 数	6	39	1	48
%	16.7	81.3	2.1	100

表6-2 受理面接以後の経過（人数）

内 訳	インテークのみ	継 続	リファアー	計
人 数	10	57	2	69
%	14.5	82.6	2.9	100

表7-1 継続面接以後の経過（件数）

内 訳	継 続	終 結	リファアー	計
件 数	24	15	1	40
%	60.0	37.5	2.5	100

表7-2 継続面接以後の経過（人数）

内 訳	継 続	終 結	リファアー	計
人 数	35	23	2	60
%	58.3	38.3	3.3	100

※再インテークのケースを含む

※インテークを実施しなかったケースを含む

※継続面接から同席者ができたケースを含む

④ 来談者実人数と年齢層

この一年間の来談者実人数とその年齢層を表8に示した。来談者実人数の総計は105名（昨年90名、一昨年131名）であった。2012年9月以前に受理をして継続中のケースを含んでいるため、来談者実人数は受理面接の件数より多くなっている。内訳では26～40歳が25名、41～60歳が41名と成人層の来談者が他の年齢層に比し多かった。

26～40歳の年齢層と0～6歳（11名）が多くなるのが例年であるが、先にも挙げたように、本年は「にこにこ教室」の来談者が回復傾向にあるとはいえ、未だ充分ではなく、この年齢層の突出がなかったのが要因と考えられる。また幼稚園から大学院までの園児・児童・生徒・学生を擁するのが本学の特徴であるのだが、中高からの紹介の少なさ（多少はある）と合わせて、大学生、大学院生は学生相談室での対応となることも、前・中思春期層（特に大学生・大学院生の年齢層）の占める割合が少ないことと関連していると考えられる。

また、総来談件数と総来談者数の検討を行っていないが、一人当たりの来談回数が以前より減少している可能性が考えられる。詳細な検討とともに、来談間隔の調整を行う必要があるのかもしれない。

表8 来談者実人数と年齢層

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人数	9	12	10	6	25	41	2	105
%	8.6	11.4	9.5	5.7	23.8	39.0	1.9	100

⑤ 来談者実人数と居住地

来談者実人数の居住地を表9に示した。来談者の居住地では、本学の所在地である茨木市居住の来談者がもっとも多く54名と全体の51.4%を占めており、次いで近隣の北摂地域の高槻市（22名）、吹田市（8名）が多かった。この傾向は、ここ数年持続しており、本クリニックは地域に根差した相談室として機能しているが、反面遠方からわざわざ来談する場合はまれであることが窺われる。

表9 来談者実人数と居住地

居住地	大 阪 府										兵庫県	京都府	奈良県	合計
	茨木市	高槻市	吹田市	大阪市	豊中市	箕面市	羽曳野市	三島郡	枚方市	東大阪市	尼崎市	京都市	生駒市	
人数	54	22	8	7	2	2	2	1	1	2	2	1	1	105
%	51.4	21.0	7.6	6.7	1.9	1.9	1.9	1.0	1.0	1.9	1.9	1.0	1.0	100

⑥ 相談内容別相談件数

相談内容別相談件数を、表10に示した。

相談内容で最も多かったのは「子どもの問題」に関する親からの相談であり42件であった。ついで「行動上の不適應問題（幼児・児童・生徒）」の12件、「自閉症スペクトラム（疑いを含む）」8件、「言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題」7件と幼児・児童・生徒についての保護者からの相談がかなりの数を占めている。これらは、連携機関から紹介を受けたケースが大半を占め、例年通りの傾向を示している。一方、「精神的疾患」8件、「身体的問題心身症」1件と、この2つは例年よりも若干減少している（昨年は12件、2件）。今年度の特徴は、「子ども以外の家族の問題」「ストレスマネジメント」「コンサルテーション」など、各々件数は少ないものの例年になく幅広い相談内容がみられたことである。

表10 相談内容別相談件数（複数記入）

来談者主訴の内容	人数
言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題（幼児・児童）	7
自閉症スペクトラム（疑いも含む）	8
親子関係（母子分離も含む）	2
不登校・不登園	6
学業上の問題	1
行動上の不適應問題（幼児・児童・生徒）	12

来談者主訴の内容	人数
子どもの問題（親からの相談）	42
子どもの身体症状（親からの相談）	0
子ども以外の家族の問題	1
ストレスマネジメント	1
対人関係	4
自分自身の実存に関する問題	6
精神的疾患	8
身体的問題・心身症	1
スーパービジョン	2
コンサルテーション	3
その他	1

⑦ 月別来談者延べ人数とその面接の種類

各月別の面接種別ごとの延べ来談人数を表11に示した。この1年間の延べ来談人数は847名であり、一昨年度よりは少ないにしても昨年同時期より56名の増加となり、ここ数年では最も多い（前年791名、前々年1060名）。内訳では、2012年11月と2013年2月が94名と最も多く、同年10月が91名、12月が87名と続いている。10月～12月および2月が多い傾向は、ここ数年続いている。延べ来談者数が最も少なかったのは、2012年9月の51名、次いで1月、5月がほぼ同数の56名、55名である。

例年来談者が少ない月は、年度末や夏季休暇の休室期間を含むことが多いが、本クリニックは春以降に来談者が激減しているのが見て取れる。これは、年度替わりの際に、終結ケースが増えるためである。終結ケースが増える大きな理由のひとつは、クリニックの非常勤相談員が任期満了にて3月に退職することが多く、それを機に来談が終結となるためと考えられる。また、子どもを担当している院生相談員が大学院を修了し、相談員の変更が契機となることもある。勿論、年度末は次年度の進路や方向性を考える時期ではあるので、相談者の諸事情で終結を望まれる場合もある。しかし、変化の多い時期ゆえに、相談機関としては変化の少ない安定した環境を提供したい。なるだけ担当者交代がスムーズに行われるよう工夫を行っているが、これは当クリニックの検討課題のひとつだと思われる。

面接種類別では、カウンセリングが年々増加し、251名と最も多いのが今年の特徴である（前々年132名、前年175名）。先の表4、表8で示した通り、41～60歳の年代の来談者が増加していることがその理由と考えられる。次いで多いのは、個人遊戯療法子ども171名とその親152名、更に集団遊戯療法の子どもの親の各53名となっている。子どもの問題に関しては並行面接で進められる。並行ケースが全体の多くを占めているのは例年と変わらないが、個人遊戯療法と保護者への面談の延べ人数自体は昨年同時期よりも子どもで30名、保護者で50名ほど減っている（前年の個人遊戯療法とその保護者への面談延べ人数は各々202名）。表4の0～6歳および7～12歳の新規相談受理人数は、昨年同時期よりも多い。しかし、全体で見ると、昨年の新規人数の減少が今年になって延べ人数の減少につ

ながっていると考えられる。よって、来年は、この2つの面接種別人数は、再び増加すると予測される。集団遊戯療法（にこにこ教室）の参加者は、前年同秋のみの開催となっており、こちらは前年なみであった。

表11 月別面接種別相談人数（延べ人数）

面接種別	2012年度							2013年度						計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
受 理 面 接	9	12	9	5	2	8	2	5		11	3	3	69	
心 理 検 査			1				2				1	1	5	
集 団 遊 戯 療 法	(子)	11	14	14	5	14							58	
	(親)	11	14	14	5	14							58	
個 人 遊 戯 療 法	(子)	10	15	15	13	12	14	16	15	16	14	15	16	171
	(親)	10	15	14	14	11	12	13	11	11	11	13	17	152
並 行 カ ウ ン セ リ ン グ	(子)	2	2	3	1	1	3	6	3	3	3	4	3	34
	(親)	2	2	3	1	1	3	6	3	3	3	4	3	34
カ ウ ン セ リ ン グ	17	22	20	24	18	25	22	21	21	19	23	19	251	
ス ー パ ー ヴ ィ ジ ョ ン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
コ ン サ ル テ ー シ ョ ン											2	1	3	
合 計	51	91	94	87	56	94	68	59	55	62	66	64	847	

3) 高度専門職（臨床心理士）養成について

心のクリニックの教育・訓練機関としての役割

本学大学院心理学研究科心理学専攻臨床心理学コースは、2006年4月に日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成第1種指定大学院となって7年目を迎えた。臨床心理士のアイデンティティは臨床心理学における心理面接、心理査定、地域援助、事例研究や実証的研究を実践し、またスーパービジョンを受けることによる専門性の向上にあるとされ、この様な専門性のアイデンティティを確立できるように専門家を育成することを目的としている。したがって学内外あわせて多数の実習施設において実践的訓練の機会を設けている。

心のクリニックは地域に開かれた心理相談施設であるとともに、上記の如く臨床心理士養成機関でもある。したがって、来談者に対しては、電話による問い合わせやインテークの段階でその旨を説明し、臨床心理士有資格者の指導のもとに大学院生がケース担当するということについて了解してもらっている次第である。そのために大学院の授業においては、心理臨床の実践ができるように厳しい訓練がなされている。

たとえば、茨木市の早期療育相談機関である児童発達支援事業所「すくすく教室」との連携による「にこにこ教室」においては大学院生が集団遊戯療法のセラピストを担当している。また、これ以外の個別の来談者についてはインテーク面接後、各ケースについて担当者の検討がなされ適切な処遇がなされるように配慮を行っている。

以下に大学院生の学内外での実習活動について記す。

「臨床心理基礎実習・臨床心理実習および心理療法実習」の学内実習について

① 大学院1年次は、当クリニックにおいて臨床心理基礎実習の授業として、次のような実習を行っている。

- ・プレイルームや相談室の整備
- ・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇の仕方などについて学んでいる。

- ・ケース・カンファレンス

大学院2年次生に対して行っているケース・カンファレンスに参加することを通して、ケース・プレゼンテーションの仕方や心理療法の過程、ケースに対する理解、心理臨床的援助の方法などを総合的に学んでいる。

② 大学院2年次には、当クリニックにおいて臨床心理実習の授業として、以下のような実習を行っている。

- ・プレイルームや相談室の整備

- ・「にこにこ教室（前期10回、後期10回）」および保護者グループへの参加
- ・不登校や行動面での問題を抱えた幼児・児童・生徒を対象として個別の心理面接や遊療法および心理査定の実践。これらについては全て各セッション終了後に臨床心理士「今・ここ」ベースのスーパービジョンを受け、ケースへの関わり方や理解の仕方学習している。

- ・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇方針の立て方などについて学んでいる。

- ・ケース・カンファレンス

実際に院生自身が担当しているケースの経過について90分の時間をかけて、発表し、相談員（本学教員）や非常勤相談員からの指導や提案を受けることによって、クライアントの理解や関わり方について検討を行っている。これにより自身のセラピストとして関わり方を丁寧に見直し、より適切に今後のケースに関わるための展望を得ることを目的としている。

- ・スーパービジョン

さらに各大学院生は担当したケースについて個別に実習担当の相談員（学外教員：2008年度末までは学内教員）より概ね2週間に1回、スーパービジョンを受けることになっている。これにより、さらに詳細に自身の心理臨床的援助の仕方や、ケースの中でのセラピストとしての自分の在り方に気づき、より専門性を確実なものとするようにしている。

「臨床心理実習および心理療法実習」学外施設における実習活動について

臨床心理実習担当教員（学内）：倉戸 由紀子・中村 このゆ・橋本 秀美・馬場 天信・溝部 宏二

心理療法実習担当教員（学外）：東 斉彰（住友病院）・大島 剛（神戸親和大学）・加藤 敬（こども心身医療研究所）・川原 稔久（大阪府立大学）・田中 誉樹（ノートルダム女子大）・鶴田 英也

（梅花女子大学）・中西 龍一（京都橋大学）・西 友子
（大阪樟蔭女子大学）・畠瀬 稔（関西人間関係セン
ター）・日比野 英子（京都橋大学）・本宮 幸孝（関
西福祉科学大学）・松田 真理子（京都文教大学）・
水本 正志（京都工場保健会）・森田 善治（龍谷大
学）・山中 祥匡（山中臨床心理研究所）

学外実習担当臨床心理士：岩本 真由・片桐 陽子・黒田 晴美・手塚 真樹子・
永井 享・仲倉 高広・名倉 祥文・西 友子・
増子 高通・松本 千穂・鞠谷 祐子・三好 幸弘・
森安 真由美・柳田 麗

1. 長期実習（大学院生の希望人数と受け入れ先の都合で毎年振り分け人数が異なる）

(1) 施設名：西宮市教育委員会学校教育特別支援教育グループ

臨床心理士：森安真由美

所在地：西宮市神祇官町2番6号

期間：2013年4月～2014年3月、毎週水曜日8：40～16：00

毎週金曜日8：15～16：00

（1日7.5時間×45週、約337.5時間）ただし曜日時間は派遣先により異なる

実習者数：3名

実習内容：西宮市教育委員会に所属し、ニーズのある各小中学校へ派遣される。担当
する生徒と様々な関わりを通じて、教育現場での支援について学ぶ。知能
検査等の心理テストを実施し、個別の指導計画書を作成し、教員の指導を
受ける。また、心理的な関わりに関しては、担当臨床心理士のスーパービ
ジョンを受ける。

(2) 施設名：豊中市子ども未来部子育て支援課子育て支援センター「ほっぺ」

臨床心理士：黒田 晴美

所在地：大阪府豊中市中桜塚3-1-1

期間：2013年4月～2014年3月、毎週火曜日9：15～17：15

（1日8時間×45週、約360時間）

実習者数：1名

実習内容：母子同室の集団遊戯療法（1才児グループ、2才児グループ：軽い言語発
達の遅れ）と母親グループ、その後のケース・カンファレンスに参加。個
別の遊戯療法もしくは保育（被虐待の疑いのある未就園児、発達に遅れ
のある幼児、情緒面の問題を持つ児童）を担当し、毎回事後に外部のスー
パービジョンを受ける。その他に、虐待に関する研修会への参加。保健師、
保育士との協働を体験する。発達検査の実施とその後のスーパービジョン
とケース・カンファレンスに参加。1歳半健診・3歳児健診の見学や外部
の研修会に同行する。

(3) 施設名：医療法人北斗会さわ病院（単科精神病院）

臨床心理士：増子 高通

所在地：大阪府豊中市城山町1-9-1

期間：2013年4月～2013年9月、毎週火曜日8：45～17：00（1名）

2013年10月～2014年3月、毎週火曜日8：45～17：00（1名）

（1日8.5時間×24週、204時間）

実習者数：2名

実習内容：通院・入院カルテを読み込み、ケース・カンファレンスに参加することで、精神障害者について理解を深め、多職種の協働とチーム医療の実際を知る。病棟での統合失調症患者との面接、デイ・ケアにおける集団療法（統合失調症圏、気分障害等の通所患者）のなかで、スタッフの一員として精神科リハビリテーションの一環に携わる。心理検査（統合失調症：WAIS-R・ロールシャッハテスト、心身症女性：バウムテスト・ロールシャッハテスト）を実施し、その後スーパービジョン（実施の仕方、検査の分析方法と報告書作成の仕方について）を受ける。

(4) 施設名：財団法人復光会垂水病院（単科精神病院）

臨床心理士：岩本 真由

所在地：神戸市西区押部谷西盛566

期間：2013年4月～2013年9月、毎週金曜日10：00～17：00（1名）

2013年10月～2014年3月、毎週金曜日9：00～17：00（1名）

（1日8時間×22週、約176時間）

実習者数：2名

実習内容：アルコール・薬物依存症についての研修を受け、院内治療・リハビリテーションプログラム（病棟グループ）酒害教室、AAメッセージ（アルコール・薬物依存症の院内治療プログラム）アルコール・薬物依存症の入院および通院患者とその後のケース・カンファレンスに参加する。デイケア通所患者に対する個別面接（統合失調症圏・アルコール依存症）をし、毎回事後にスーパービジョンを受ける。個別で心理検査（神経症圏：ロールシャッハテスト、アルコール依存症：WAIS-R）を実施し、その後の指導（実施の方法、検査の分析方法と報告書作成の仕方について）を受ける。

(5) 施設名：医療法人栄仁会宇治おうばく病院（単科精神病院）

臨床心理士：片桐 陽子、名倉 祥文、松本 千穂

所在地：京都府宇治市五ヶ庄三番割32-1

期間：2013年4月～2014年3月 前期：毎週金曜日9：00～17：00

後期：毎週木曜日9：00～17：00

（1日8時間×45週、約360時間）

実習者数：1名

実習内容：前期は、心理室のスタッフルームにて心理検査（主に認知機能検査やバウムテストなど投影法）の実施および指導を受けることを中心に実習を行う。並行して、精神科病棟などで患者に接する時間を持つ。その他、心理教育や回想法プログラムへの参加が許可されている。心理検査や患者との関わり方について1名の臨床心理士にスーパービジョンを受ける。後期は、復職トレーニング専門デイケアにて、2名の臨床心理士の業務補助を行う。SST、アロマセラピー、マインドフルネス、ヨガ、アサーショントレーニング、コラージュ療法など、ストレスマネジメントに有用な多彩なセラピーを実施する。利用者との交流の一環として、利用者との昼食をともにすることが義務付けられている。

(6) 施設名：国立病院機構大阪医療センター（総合病院精神科）

臨床心理士：仲倉 高広

所在地：大阪府中央区法円坂2-1-14

期間：2013年4月～2014年3月、毎週木曜日9:00～17:00

（1日8時間×45週、約360時間）

実習者数：2名

実習内容：毎週あるカンファレンスへ参加する。前期はHIV患者さんへのインタビュー内容について、後期は担当ケースについて臨床心理士からスーパービジョンを受ける。他校からの実習生と合同で、K式、認知機能検査などの勉強会がルーチンとして行われる。その他不定期ではあるが、精神科の予診や診察の陪席、認知機能検査や発達検査の実施と所見作成、HIVや血友病の講義、がん緩和ケアサポートチーム回診への参加、AIDSカウンセリング研修会や看護師研修会への参加などが可能となっている。

(7) 施設名：楓こころのホスピタル

臨床心理士：西 友子

所在地：大阪府泉佐野市中庄1025

期間：2013年4月～2014年3月、毎週金曜日9:00～17:00

（1日8時間×45週、約360時間）

実習者数：1名

実習内容：デイケア（9:00～15:00）に参加し、その間に検査（WAIS-R、ロールシャッハテスト、バウムテスト、P-Fスタディなど）が依頼されれば優先的に実施する。デイケア終了後に臨床心理士よりスーパービジョンを受ける。また、他校からの実習生と合同で、描画テストをデイケアにて実施する。

(8) 施設名：茨木教育センター 不登校児童・生徒支援室「ふれあいルーム」

臨床心理士名：橋本 愛

所在地：茨木市駅前4丁目7-2